

## 2024年度同志社大学大学院司法研究科

### 前期日程入学試験問題解説

#### 小論文

##### 第1問（配点：50点）

本問は、課題文について、文章の読解能力と、読み取った内容を問いに則して要約し、表現する能力を試している。

採点に際しては、以下の点を中心に評価した。

- ・居場所づくりが始まった時点での地域づくりと居場所づくりの関係性に言及しているか
- ・その後生じた両者の関係性の変化について、その内容を正しく理解し、適切に表現できているか
- ・両者の関係性の変化をもたらした要因について、著者の考えを正しく理解し、適切に表現できているか

##### 解答例

従前、居場所づくりと地域づくりは別物であり、しばしば対立する関係であった。地域づくりの担い手は自治会や町内会であり、子供会、敬老会や季節の祭り等のイベントが実施され、子供から高齢者までが参加した。そこでは困っている人などいない、との想定で運営がなされ、何らかの課題を抱えて困っている人は排除された。居場所づくりとは、そのように排除された子や人を支援するためのものであった。

自治会等の旧来の地域づくりの担い手が、1990年代以降の社会構造の変化や人口構成の変化等のために弱体化した一方で、地域のつながりの低下という事態に住民自ら対処すべく、その処方箋の1つとして居場所づくりを行う新たな地域づくりの担い手が登場した。彼らにとっての居場所は、困っている人達の居場所ではなく、困っている人達も包み込むみんなの居場所であり、居場所づくりはインクルーシブな地域づくりの手段となった。

このような変容の要因としては、旧来の地域づくりの担い手が、新たな住民ニーズ、とりわけ防災・危機管理と地域福祉に対応できなかったため、新たな担い手が、これに対応するために地域のつながりを強化しようとしたことが挙げられる。また、価値観や課題が多様化したため、誰もがマイノリティーの部分を抱えており、課題をもっていない人間などいないとの感覚が一般化したという事情も影響している。(575字)

##### 第2問（配点：50点）

本問は、課題文について、文章の読解能力と、読み取った内容を問いに則して要約し、表現する能力を試している。

採点に際しては、以下の点を中心に評価した。

- ・課題文に従い、タイプ A とタイプ B それぞれの強みと弱みを適切に指摘することができるか
- ・ **well-being** な地域づくりのために著者が望ましいと考えるそれらの組み合わせについて、正しく理解し、適切に表現できているか

#### 解答例

タイプ A の強みは、参加者相互の関係性がフラットであるため、参加することに気負いや気兼ねが生じにくいという点にある。参加することでスティグマが生じる余地はなく、多くの人の支え合いを可能にする。課題を抱えた者も気兼ねなく参加できるし、また、そこでできた友人、知人の関係は課題の深刻化を予防する効果もある。他方、弱みとしては、多くの人が集まる所が苦手な者がいるし、勘違いをした考えをする者の参加も排除できず、解決できないニーズが残るという点を指摘できる。

タイプ B の強みは、多様化する支援ニーズに対応できるという点にあり、他方、そのためには多様な居場所を用意する必要があるし、また、困っている人の行くところ、というラベリングをされると、そこに行くことがスティグマを生じさせ得るという弱みがある。

したがって、タイプ A の参加型の居場所が豊富に用意された地域コミュニティーを1階部分として形成することで、課題を抱えた者を含むできるだけ多くの者の参加を促し、地域のつながりを強化するとともに、そこで課題を解決できない者のために多様なタイプ B の支援型の居場所を2階部分として構成する組み合わせが、**well-being** な地域づくりにとって望ましい。(約 513 字)